

令和3年度第2回蕨市総合教育会議 議事録

1. 日 時 令和4年2月4日（金） 午後3時～午後4時15分

2. 会 場 WEBによるリモート会議

3. 出席者（敬称略）

市 長：頼高 英雄

教育長：松本 隆男

委 員：萩原 敏行、尾方 香里

事務局：【市長部局】佐藤 慎也（理事）、伊藤 浩一（総務部長）、石丸 岳広（健康福祉部副参事保健センター所長事務取扱）、佐藤 則之（政策企画室長）、高木 勇輔（政策企画室主事）

【教育部局】渡部 幸代（教育部長）、原田 卓治（教育部次長学校教育課長事務取扱）、加納 克彦（教育部次長生涯学習スポーツ課長事務取扱）、田中 昌継（教育総務課長）、佐藤 昌史（図書館長）、赤羽 悟（教育総務課長補佐庶務係長事務取扱）、松永 由美子（学校教育課指導係長）

4. 内 容

1 開会

【伊藤総務部長】

ただいまから、令和3年度第2回蕨市総合教育会議を開会いたします。

2 あいさつ

【伊藤部長】

はじめに、頼高市長からご挨拶をお願いいたします。

【頼高市長】

皆さんこんにちは。本日は令和3年度第2回蕨市総合教育会議にご出席いただきありがとうございます。また、日頃から蕨の教育行政の推進にたいへんご尽力いただいておりますことに、市長として感謝申し上げます。前回に引き続き、Webによる会議となりましたが、どうぞよろしくをお願いいたします。

さて、ご承知のとおり、現在、オミクロン株の感染急拡大の真最中という状況です。すでに報道されているとおり、今回の感染拡大は特に子どもたちへの感染が広がっていることが、大きな特徴だと言われております。蕨市内の小・中学校

においても、1月下旬頃からコロナ感染症による学級閉鎖、あるいは学年閉鎖が、子どもたちの感染とともに増えてきているという状況です。学校現場においては、大変な状況のなかでも、感染防止対策を講じ、基本的には通常の教育活動を懸命に取り組んでいただいておりますし、学級なり学年閉鎖となった場合も、一人一台のPC端末も活用して何とか学びを継続するために努力していただいているところです。また、行事等についても、昨年の秋の大会については延期をしながらも何とか開催できましたが、この1月に予定されていたスキー林間学校は、第一中学校と東中学校について残念ながら中止ということになってしまい、本当に子どもたちにはかわいそうだなという気持ちです。実は、業者との関係で言いますとキャンセル料が発生するという現実的な問題もあり、これは市の財政負担にてキャンセル料を賄わせていただいております。

こうした感染拡大のなかで医療対策に取り組んでおりますが、市内では15の医療機関が対応している発熱外来については、特に患者も急増しております。市立病院で申し上げますと、現在、多い日では1日100人を超えるかたが来院する状況で、発熱外来をはじめとして全力を挙げているところです。感染拡大を防止して市民の皆さんの健康を守るうえで、ワクチンの追加接種が非常に重要であり、今、蕨でも3回目のワクチン接種に総力を挙げております。報道のとおり国の方針では当初、2回目接種から8か月経過した人が対象ということでスタートし、徐々にそれが前倒しになってきているところですが、蕨市でも高齢者の皆さんについては1月14日から、県内でいち早く8か月を7か月に前倒しをし、さらに1月31日からは6か月に前倒しをして進めている状況です。64歳以下の皆さんについても2月14日から、同様に6か月に前倒しをして進めていくということで、今、準備をしており、何とかこの追加接種を早く進め、感染の波を乗り越えていきたいと思っております。

また、その他の議題でも保健センターから報告があると思いますが、子どもたちへの感染が広がっている状況を踏まえて、市独自の取組として子どもたちにいわゆる抗原定性検査キットを配布しようということで、すでに中学生については配布を行い、本日、小学生にも配布をさせていただいております。病院に行くのもなかなか難しい状況のなか、少しでも体調に不安があるときに使っただくことで不安も解消するし、家に留まってもらうことにもなります。あるいは学校の周りで感染があった場合、現在は濃厚接触で全員の検査をすることが難しい状況ですが、そうした際にも活用してなるべく早く感染防止につながれるよう、あるいは不安の解消につながるようにと取り組んでおります。また、現在、濃厚接触者の場合は待機期間が7日間というなかで、社会を支えるうえで欠かせない学校や保育園の職員、保育士の皆さん、いわゆるエッセンシャルワーカーの皆さんがこの抗原定性検査キットで陰性が確認できれば5日間に短縮で

きる、そんなことにも活用できるよう取り組んでいるところであり、何とかコロナ感染症を乗り越えていきたいなと思っております。

例年、年度の2回目の総合教育会議は新年度の教育事業の予算を中心にご審議いただいております。今回も同様の議題を扱う予定です。それぞれ担当から報告がございますが、主な点だけ申し上げますと、一つは令和3年度から学校体育館のエアコン整備がスタートし、すでに市内3校の設置工事が2学期に間に合うように完了しておりますが、新年度は小学校2校の設置工事、さらにはその翌年度のための設計なども予定しております。また、小学校の通級指導教室「ことばときこえの教室」について、現在、北小学校と東小学校にありますが、必要とする子どもたちが増えてきていることから、新たに南小学校に設置する準備を進めております。その他、これはコロナ対策の一環でもありますが、市立図書館にて蔵で初めて電子図書を導入するというのも進めています。2,500冊程度を電子図書というかたちで整備し、図書館に行かなくても本が読めるというようなサービスを提供しようと準備をしております。

本日の総合教育会議では教育委員の皆さんに忌憚のないご意見をいただき、蕨市の教育行政の推進に向けて委員の皆様のお力添えをいただくことをお願いしまして、冒頭の挨拶とさせていただきます。

3 議題

【伊藤部長】

ありがとうございました。それでは、要領の規定に基づき、会議の議長を頼高市長にお願いさせていただきます。市長、よろしくお願いたします。

【頼高市長】

はじめに、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定により、総合教育会議は公開することとなっておりますが、本日の会議に傍聴の希望者はいらっしゃいますか。

【伊藤部長】

本日は、傍聴希望者はありません。

(1) 令和4年度教育事業の概要(案)について

【頼高市長】

それでは、会議次第に基づきまして会議を進行いたします。議題(1)「令和4年度教育事業の概要(案)」についての説明を事務局よりお願いします。

【田中教育総務課長】

それでは、令和4年度教育事業の概要案についてご説明させていただきます。資料1ページの蕨市教育大綱の抜粋を御覧ください。

教育の目標や施策の根本的な方針である大綱は、教育基本法第17条に基づき定めるものとされており、蕨市教育大綱は、第二期蕨市教育振興基本計画において、蕨市の教育の目指す姿として掲げる基本理念、基本方針基本目標を骨子として構成しております。

令和4年度教育事業の概要案は、この蕨市教育大綱を基に、基本目標に掲げる「①学びあい高めあう学校教育の充実」、「②生涯学習を支える社会教育の充実」、「③どこでもだれもが親しめる生涯スポーツの充実」の各分野において実施する13事業でございます。

各事業の内容につきましては所管課よりご説明させていただきます。まず、基本目標①学びあい高めあう学校教育の充実について、よろしくお願いいたします。

1 少人数学級推進事業（35人程度学級）

【原田教育部次長】

予算額は1,634万9,000円で、令和4年度は3人の市費教員の配置を予定しております。すでに小学校1年生は国の学級編制基準により35人学級が実施されており、令和4年度は小学校2・3年生において、県による35人学級を実施する予定となっておりますが、蕨市においては市独自の35人程度学級の実施により、小学校4年生から6年生においても少人数での学習指導や生活指導を行います。低学年からの円滑な引き継ぎを行うとともに、一人ひとりの児童への支援の充実を図るものです。少人数学級の目的は、学級編制を少数化するにより、学級担任の目が行き届いたきめ細やかな教育指導を実施することですが、これにより、教師が一人ひとりの児童としっかりと向き合い、また、保護者の皆さんに対しても丁寧に対応ができております。

2 教育センターの効果的な運用

【原田次長】

予算額は1,601万1,000円です。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症が収まってくれば、通常どおりに各教科等主任会を開催してまいります。また、教育センターにはICT機器が整備されていることから、ICT活用指導力向上ワーキンググループの研修やALT研修、その他の研修におきましても、ICT機器の使用にかかる効果的な研修の推進を図ってまいります。

3 学校ICT環境の活用（ICT支援員の配置）

【原田次長】

予算額は990万円です。令和3年度に、各学校で授業におけるICTが積極的に活用され始めたことに伴い、ICT支援員を1人配置いたしました。各校で

の校内研修の企画運営支援、教職員ポータルサイトによる基礎的なICT活用の解説、効果的な授業活用事例の紹介、各校への巡回による教材作成支援、及び、教員や児童・生徒への端末操作支援などにより、教員のICT活用技能は確実に向上しており、児童・生徒においても端末に触れるたびにその向上が図られているところです。

令和4年度も引き続き配置を予定しておりますので、児童・生徒の情報活用能力を培うことができるよう、支援員の活用を推進してまいります。

4 ALTやGTTCを活用した外国語教育

【原田次長】

予算額は4,410万3,000円です。小・中学校の外国語教育のいっそうの充実を図るために、令和2年度より市内全小・中学校に1人ずつのALTを派遣して外国語指導を実施しており、この1校1人の配置によりまして、担任との綿密な打ち合わせを通じて、ALTを効果的に活用した授業の展開が全小・中学校で実施できるようになり、ALTによる教材開発の充実も図れるようになってまいりました。さらに、話すことなどの習熟度を測るパフォーマンステストを担任とALTが共同で実施することで、児童・生徒の学習習熟度を適切に把握して、個々の学習改善や教職員の指導改善を図っております。令和3年度は、中学校2年生及び3年生に、GTTCを活用した英語4技能テストを実施し、その効果を検証しているところです。現在確認できている範囲で申し上げますと、市立中学校3校について3年生の結果を分析したところ、いわゆる英検3級程度の力を持っている生徒の割合は、市全体としては57.8%でした。これは国が目標としている50%を大きく上回る数字であり、蕨市のこれまでの外国語教育における成果であると認識しております。リスニング、スピーキング、読み・書きにおいてGTTCに付随している教材を活用することにより、個別に各自のレベルに合わせた練習ができました。また、テスト結果が記載されている個人帳票には、各自の課題が記載されており、その指摘に基づいた自主的な学びにつながっていきました。

引き続き、教員研修の充実も図りながら、生徒の外国語活用能力のいっそうの向上を図ってまいります。

5 通級指導教室の増室（難聴・言語通級指導教室）

【原田次長】

予算額は228万5,000円です。先ほど市長からも説明がありましたが、現在、東小学校及び北小学校に1教室ずつ、ことばときこえの教室を設置しております。令和4年度は入室希望者が多くなることから、県に加配教員を申請しま

したところ、さらに1人の加配が認められたことに伴って、南小学校に1教室を増設する予定です。これにより、年度当初から入室希望者が全員通室することが可能となります。さらに、年度途中からの入室希望にも応えられる見込みです。ことばやきこえに不自由を感じている児童が少しでも減っていくことができるように、支援の充実を図ってまいります。

6 教員業務支援員（スクール・サポート・スタッフ）の設置

【原田次長】

予算額は684万6,000円です。令和3年度に引き続き、令和4年度も市立全小・中学校にスクール・サポート・スタッフを配置する予定です。主に、教職員の働き方改革に資するための業務、具体的には会議資料及び学習用プリントの印刷、採点業務補助、来客や電話対応などを行う職員です。各校とも教員の業務軽減に大きな役割を果たしております。1日5時間、年間130日間の勤務を予定しております。

7 学校体育館のエアコン設置工事

【田中課長】

予算額は1億424万4,000円です。教育委員会では、近年の猛暑対策として、学校における教育環境の向上とともに、避難所としての機能を高めるために、学校体育館への空調設備の設置を進めており、令和3年度はすべての中学校に空調設備を設置いたしました。令和4年度は、さらに北小学校と中央小学校で設置工事を行うほか、小学校2校の設計委託を行う予定としております。

8 コミュニティスクール事業の推進

【原田次長】

予算額は9万円です。令和4年度も引き続き、学校運営や教育活動に対して主にPTAが参画できるよう、そして、学校の教職員負担の軽減につながるよう、東小学校・塚越小学校・東中学校の3学校区を1地区としたコミュニティスクールを推進していきます。今年度は学校運営協議会を年間5回開催する予定としておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策によりまして、3回の開催予定となっております。内容は、委嘱状交付、各校情報交換、人材バンクの募集開始、学校評価、それから学校経営方針の承認です。令和4年度は、委嘱状交付、人材バンク運用研修会、学校評価、学校経営方針承認の内容で年間5回を開催する予定です。令和4年度に運用を本格開始する人材バンクにつきましては、保護者の優れた人材を発掘して、そのかたがたを積極的に活用し、教育の充実及び教職員の負担軽減を図ることを重点的に行ってまいります。

【頼高市長】

それでは基本目標①学びあい高めあう学校教育の充実について、委員の皆さんよりご意見、ご質問がありましたらお願いします。

【萩原委員】

萩市がいろいろな活動においてたいへん積極的に取り組んでいることは、日頃のこの委員会の活動のなかで非常に体感しているところです。

今回さまざまな話が出ておりましたが、このICT支援員を配置していくこと、また、前倒しですべての子どもたちにPC端末が届いたということで、今、学校内でも積極的に活用されているところだと思います。ただ、現状では、どのようにこれらを使うかということに関して、日本全体的に見てもまだ手探り状態です。結果が軽々に出るものではないことは分かっていると思いますが、やはり予算が動いているため、結果はどうかというような声があるかもしれません。そうした点は、市長を中心にじっくりと見守ってほしいなと考えます。

また、後ほど電子図書についての話もあると思いますが、電子図書とこの学校ICTを関わらせること、また、通級学級なども場合によってはICTによって可能性が広がることもあると思いますので、ぜひ、皆さんの知恵を借りながら深めていただけたら、非常に良いことだなと思います。

【尾方委員】

先ほどGTCCを活用した外国語教育という話があり、また、中学校で英検3級程度が57.8%と全国的には非常に良い結果だったという説明がありました。しかし、そこに到達するまでにはやはり個人差が非常に大きいと思います。特に小学生は、英語を習っている子とそうではない子の差が非常にあり、低学年時に劣等感を抱いてしまうと、伸び悩むお子さんも多いと思います。ALTの先生が各校に配置されているとは思いますが、それぞれの能力に合わせて子どもたちに合った教育がなされたら、さらに良いと思います。

さらに、学校ICT環境の活用について、ICT支援員のかたが昨年度1人配置され、今年度も配置ということですが、やはり1人のかたで10校をカバーすることは難しいところもあるかと思います。そのため、学校間での先生がたによる情報共有、問題点の共有なども進めていただけると、さらに良い方向に向かうのではないかと考えました。

【萩原委員】

スクール・サポート・スタッフはたいへん面白い取組で、非常に効果も上がっているという話を先ほど伺ったのですが、今後も活用していただきたいなという印象を持っております。実際に現場の先生がたにとって少しでも労働の軽減になり、子どもたちの教育への取組にさらに比重をかけられるようになったら良いと思います。こうした活動を積極的に取り組むことにより、ぜひ、先進的な

事例として、蕨市の学校は先生たちにとって授業しやすいというようになってから良いのではないかと考えます。

【頼高市長】

先ほど、尾方委員より小学生で英語を習っている子もいるというお話がありました。実際に学校現場ではどのような状況でしょうか。

【原田次長】

塾などで英語を習っている小学生についての統計は持ち合わせてなく、はっきりとしたことは言えないですが、確かに習っている子と習っていない子がいるのだと思います。今、小学5・6年生は英語が教科化になっておりますが、3年生からは外国語活動というかたちで、主に英語に親しむといったことを中心に学習を展開しているところです。子どもたちはALTのかたとかわることが大好きで、また、幸いにも良いALTを採用させていただいており、授業中のみならず休み時間や給食時にフレンドリーに子どもたちと接してくれております。そうしたなかで、子どもたちが日常的に英語を活用し、正確でなくとも通じ合おうと、お互いに喜びや楽しみを感じております。そうしたことを土台として英語とのつながりを培う一方、子どもたちに応じて、分からなければ繰り返し教えるということもあるでしょうから、劣等感を感じることなく、楽しみながら英語に触れていけるよう、引き続き、学習の充実を図ってまいりたいと存じます。

【萩原委員】

今、ALTの先生の話がありましたが、蕨市の特徴として、日本語が話せない子どもたち、もしくは日本語に難がある子どもたちが多いという特徴があると思います。ALTの先生に対してそうした子どもたちはどのような状態にいるのかなど、何か情報がありましたら教えていただければと思います。

【原田次長】

そうしたお子さんがALTに対してどのように接することができるのかといった、細かな情報を分析しているわけではなく、恐れ入りますが現時点では正対したお答えはできません。学校からの情報のなかでは、しゃべることができないお子さんに対して、コミュニケーションがうまくいかないというようなことは報告としてはございませんし、実際に学校をのぞかせていただいても、そうした状況は見受けられないかなというようには感じているところです。現在、日本語に関しては担当教員を配置してサポートをしておりますが、先ほどの点についても不自由を感じているかどうかについて学校に確認し、必要があれば対応をしっかりと考えてまいりたいと存じます。

【頼高市長】

これまでの英語教育の成果として、中学校で英検3級程度が57.8%という話がありました。さらに、GTCCを活用して英語力をあげていこうという点に

関して、初年度の取組を行った状況や学校現場の様子について、感想程度でも構わないので教えてください。

【松永学校教育課指導係長】

まだ中学3年生を対象とした結果のみが戻ってきたところですが、GTECを取り入れて一番良かったことは、「読む」・「聞く」・「書く」・「話す」の4技能について、子どもたちがどの程度の習熟度かということが詳細に分かる点です。教員からは今までの指導の成果が出ている部分や、課題部分について把握でき、たいへん参考になったという意見を聞いております。先ほど57.8%という数字を申し上げましたが、例年、国において実施している調査では、実際に英検3級程度の成績を取得した者に加え、同等の力を持つと教員が判断した子どもも合わせて、全国目標で50%となっているところですが、一方、蕨市の57.8%については、純粋に英検3級程度の能力に達している生徒の数であり、また、試験が行われた当時は、子どもたちを対象としたワクチン接種が始まった時期であり、実際、体調不良等で受けられなかった子がいたと聞いていることも鑑みると、かなり高い数字になっているのかなと考えております。この結果は中学校の教員にとって励みになったと思いますし、また、スピーキング能力について課題があるなど、さらに支援が求められる部分も分かってきておりますので、今後はそうした点を教員研修にて集中的に伸ばしていければと考えております。

【頼高市長】

もう1点、令和3年度はまさにICT教育元年のような年でしたが、さまざまな試行錯誤があったと思われます。学校現場の様子などについて、感想程度で構わないので率直にどのように感じたか教えてください。

【原田次長】

授業をのぞきますと、先生がたが特に意識していることは、協働的な学びという観点でICTを活用するという点で、その点はよくできているなと考えます。協働的な学びについて申し上げますと、一人ひとりが自身の考えを記し、それを共有して、そして、その考えが他者にも伝わっていくということが非常に大事なことだと考えます。先生に聞いたところでは、ICTを活用して全体に考えが共有される場面が増えたことで、今までいい加減なことしか書かなかった子が真剣に考え、記すということが如実に表れているそうです。一方で、すべての子どもたちの考えが全体に共有されやすくなったことで、一つ一つの考え方から何が言えるかなど深い学びにつなげるコントロールや、数多く出た意見を分類整理していくコーディネート力が教員には求められ、なかなか難しいと考えるとともに、さらなる勉強が必要であると感じています。

【頼高市長】

引き続き、試行錯誤を重ねながら活用して行ってほしいと思います。

また、学級閉鎖等のなかでICTの活用を行っている話も聞いていますが、紹介できるものがあれば教えてください。

【原田次長】

現在、学校の支援内容については各校に確認しながら、適切に指導を行っているところです。多くの学校では、時間を決めて「Googleミート」を活用し、通学している子どもたちに加え、感染不安により出席停止扱いとなっている子どもも先生と遠隔にて顔を合わせたり、授業に参加したりするなど、疑似教室のような様子を見せています。さらに、通学できない子どもたちには端末を通じて宿題などを配信し、家庭学習ができるよう配慮しているところです。また、先生が活用している「スクールタクト」には、課題ワークシートのテンプレートがあり、先ほどの配信と合わせて活用しております。こうしたアプリや機能をフルに使うことで、子どもたちの学びを止めないよう取組を進めております。

【頼高市長】

有効活用できているということで、継続してお願いします。

【松本教育長】

コロナ禍で非常にたいへんな状況にあるなか、委員の皆さんにいただいたお話をはじめ、さまざまな点について学校ごとに考え、子どもたちを第一にしながら取組を進めているところであり、本当にありがたいなと思っています。

特に、運動不足については懸念されているところですが、本市の児童・生徒は頑張っけて体を動かしており、過日、小学校1校・中学校1校の2校が埼玉県の体力向上優良校に認められたと知らせがあり、うれしく思っているところです。

【頼高市長】

続きまして、基本目標②生涯学習を支える社会教育の充実について、事務局より説明をお願いします。

1 電子図書館サービス

【佐藤図書館長】

新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、令和4年度に新規事業として予定している「電子図書館サービス」の開始に伴う、電子書籍コンテンツ等を新規購入するための予算として500万円を計上しております。事業内容は、インターネットに接続できるパソコンやスマートフォン、タブレット端末があれば、時間や場所に制限されることなく、24時間いつでも読書を楽しめる環境を提供するものです。利用者は原則、図書館に来館せずに利用できますので、職員や他の利用者との接触による感染リスクを下げることができ、コロナ禍における新しい生活様式に対応したサービスを実践できるものと考えます。

2 わらび学校土曜塾

【加納教育部次長】

わらび学校土曜塾は平成25年度にスタートし、翌年度からは全7小学校区で事業を展開しております。概ね隔週土曜日の午前中、学校を会場にして、小学校3年生以上の子どもたちを対象に、学ぶ楽しさや学習習慣の定着、また、基礎学力の向上を図るといったことを目的として自主学習の支援、体験学習等を行っております。各校区においては市民のかたや元教員、大学生のかたなどにご協力いただき、スタッフを務めていただいております。今年度に関してはコロナ禍ということで学校の使用を見送り、7校区とも最寄りの公民館にて土曜日等に取組を行っております。新年度につきましてもコロナ感染症の様子などを踏まえながら、できる対応をしてまいりたいと思います。

3 音楽によるまちづくり

【加納次長】

令和3年度はコロナ感染症の影響により、一部の事業について無観客による実施や開催延期等も行いながら、取組を進めてきました。新年度も引き続き、芸術文化の振興と、音楽を通じた賑わいの創出や本市のイメージアップを図ることを目的に、蕨市民音楽祭の開催や音楽関連情報の発信、小・中学校への音楽家の派遣を実施してまいります。

4 市民や社会教育関係団体・PTA等を対象とした人権講演会の開催

【加納次長】

例年、公共施設等にて人権講演会や人権同和研修を実施しているもので、新年度もコロナ禍が見込まれますが、人権の取組は粘り強く実施してまいります。

【頼高市長】

項目が少ないため、引き続き、基本目標③どこでもだれもが親しめる生涯スポーツの充実についても事務局より説明をお願いします。

1 各種イベントやスポーツ教室等の開催

【加納次長】

令和3年度は、コロナ感染症の影響により実施を見送った事業が続くなか、取り組めるものは工夫をして行ってきました。新年度についても、主なものとして市民ロードレース大会や市民水泳大会、体力テストや少年スポーツ教室、民間温水プールの借り上げ事業を実施し、市民の皆さんの健康づくりや体力づくりを進めてまいります。

【頼高市長】

それでは、基本目標②生涯学習を支える社会教育の充実、基本目標③どこでもだれもが親しめる生涯スポーツの充実について、委員の皆さんよりご意見、ご質問がありましたらお願いします。

【萩原委員】

電子図書館については、ぜひ、学校教育と連携させるような取組にしていだけたらなと考えます。令和2年度の文部科学省の資料によると、公立学校の教育において電子図書を使用している自治体は全体の2%にすぎないというデータがあります。もし、蕨市がこれに取り組む場合、かなり先進的な取組になると考えられますし、せっかく電子図書を導入するのであれば、情報収集の際など、ぜひ、教育において活用すると良いと考えられます。

【佐藤館長】

学校との連携として、一例では、朝読書の際に電子図書を活用する案など検討しておりました。一方、今回2,500冊を導入するという一方で、数に限りがあるなかサービスにしっかりと取り組み、さらに充実できるならば児童向けの本を揃えるなど、まずは今後につなげていく段階になるかと考えております。

【萩原委員】

私も、ある意味では一番気になるころでした。予算が500万円ですので、システムを導入したら終わりなのではないかと思われま。予算に限りがあるのは理解できますが、様子を見ながら取り組む姿勢では結局いつまでもできないということになりうると考えます。ウィズコロナにおいて、子どもたちの接触機会などコロナ対策の面で考えても、子ども用の図書を充実させていくことはとても重要です。ぜひ、今後、予算について検討していただけたらと考えます。

【尾方委員】

先ほど各種イベントの実施状況の話がありましたが、今後はオンラインでの配信や講演会など、新しいかたちでの学びについても検討していただきたいと考えます。例えば、講演会について、子どもを連れていけない保護者のかたや障害のあるかたがオンラインなら参加できるなど、さまざまあると思われま。

【頼高市長】

その点も重要だと考えます。コロナ禍だからやむを得ずという側面だけではなく、オンラインであれば参加できるということであれば、参加条件が相当広がるということもあります。以前、文化ホールくるるで行われた講演会では、現地とオンラインでのハイブリッド型にて実施した例がありましたが、今後も工夫して取組を進めてほしいと思いま。

また、先ほどの電子図書について、利用手続きとしてIDやパスワードが必要になると思いまりますが、発行方法については現状でどのように考えていまか。

【佐藤館長】

検討中の案では、図書館利用券の利用券番号をIDとし、生年月日を初期パスワードに仮に設定して、ログイン後に各自でパスワードを変更して利用していただくことを想定しており、図書館に来館することなく、電子図書館サービスを利用開始できるようにと考えております。また、普及しているインターネットブラウザであれば大体利用が可能ということで、特殊なアプリをダウンロードする必要もなく、幅広く利用できるのではないかと考えております。

【頼高市長】

電子図書は実際の本と同様に読者が1人いた場合は他の人は読めないのか、それとも1冊の図書を同時に何人でも読めるのか、どういう仕組みですか。

【佐藤館長】

現在ヒアリングを行っている事業者の話では、1人が読んでいる場合は残念ながらロックがかかり、他の利用者は読むことができません。同時に複数のユーザーで読める状態にするためには人数分のライセンスを用意しなければならず、その分、料金も払う必要があるということで、費用がかさまらずに同時に誰でも利用できるというサービスは今のところ聞いておりません。

【頼高市長】

萩原委員も仰っていたように学校に焦点を当てて、著作権等の問題をクリアしたうえで、例えば、1自治体あたり50人分までなら子どもへ使用できるといったように、使いやすいサービスがあると良いのですが。

【佐藤館長】

なかには、無償のコンテンツを用意している事業者もあり、無償コンテンツでしたら場合により同時に複数のユーザーがアクセスできるかもしれません。

そうしたものを導入できれば良いですが、一方、おそらくそうしたコンテンツは大分古く、年数の経った図書になるのではないかとと思われます。

【頼高市長】

子ども向けの名作であれば、長く読まれている本もあると思いますが、そうした使い方ができれば朝読書などに活用できて非常に良いと思います。

【萩原委員】

実践例として、静岡県熱海市が朝読書に電子図書を使用していたり、栃木県矢板市では小・中学校で授業に活用していたりするので、どのような仕様かなど調べてみると良いと思われます。

【頼高市長】

ありがとうございます。

他市事例など、引き続き研究を続けてください。

(2) その他について

【頼高市長】

次に議題の(2)その他について、事務局から何かありますか。

【佐藤政策企画室長】

1点報告したいと思います。

抗原検査キットの配布及び3回目のワクチン接種について、担当の保健センターより報告いたします。

【石丸健康福祉部副参事】

新型コロナウイルス関連事業について報告いたします。

まず、抗原検査キットの配布事業についてです。新型コロナウイルス感染症の第6波では子どもたちへの感染が拡大していることから、蕨市では早期に拡大を防止するため、市内の全児童・生徒・園児に医療用抗原定性検査キットを1人に一つずつ、順次配布することといたしました。配布方法は、中学生は1月28日から中学校を通じて全員に配布しており、その他の私立中学校や特別支援学校、区域外の学校に在籍する生徒には、2月1日から順次ご家庭に発送しております。小学生については、配布する抗原キットが今週入荷いたしましたので、本日から配布する予定となっております。この検査器具は、国が承認をしている体外診断用医薬品と呼ばれるもので、新型コロナウイルス感染症に対する検査キットとなっております。使用対象者は生徒や同居家族で、軽微な症状がある場合など、医療機関受診の目安としてご使用いただけます。この検査で陽性となった場合は、速やかに自宅等での隔離措置を講じ、医療機関を受診していただくこととなります。陰性の場合であっても、誤って陰性と判断された可能性も考慮し、症状がある場合には医療機関の受診をお勧めしております。また、症状がない場合についても、引き続き外出時のマスク着用、手指消毒等の基本的な感染対策を続けてください。医療機関の受診については、新型コロナウイルス感染が疑われる場合は、市ホームページに記載がある新型コロナ等の診療ができる医療機関に、その他の症状の際には、かかりつけ医等の地域で身近な医療機関に必ず電話等でご相談いただき、受診していただくようお願い申し上げます。

続いて、新型コロナワクチン追加接種についてです。市では国の新型コロナウイルスの追加接種の実施方針に基づき、3回目接種を順次進めてまいりました。当初国では、ワクチンの接種間隔を2回目の接種後概ね8か月以上としておりましたが、数回にわたり接種間隔の方針が変更され、現在ではさらに接種期間の前倒しを行うよう自治体に求めています。市ではオミクロン株などによる感染急拡大に対応するため、いち早く全市民を対象に、接種間隔を2回目の接種から6か月経過に前倒しして、接種することといたしました。先ほど市長からも話がありましたが、すでに65歳以上の高齢者のかたについては、1月31日から実

施とし、接種券も発送しており、64歳以下のかたは、2月14日からとなります。各接種会場の空き状況については、市ホームページ上に掲載しております。接種券が届き、すぐにご予約いただければ、かなり早いタイミングで接種を受けることが可能となっております。発症や重症化を防ぐため、早め早めの接種をご検討いただければと考えております。

【頼高市長】

それでは、ただいまの件についてご意見、ご質問がありましたらお願いします。

【頼高市長】

ございませんか。

ワクチン接種については、すでに報道等されているように、現在は1、2回目の接種については12歳以上のかた、追加接種については18歳以上ということで実施しております。しかし、1回目の接種については、12歳未満の年齢のかたについても国の方針が正式に決まりましたら、しっかりと進めてまいりたいと思います。

【頼高市長】

そのほか、事務局からは何かありますか。

【佐藤室長】

次回の会議日程の提案でございますが、10月頃に開催することを提案させていただきますがいかがでしょうか。

【頼高市長】

ただいま、事務局から次回会議の開催時期について提案がありましたが、いかがでしょうか。

【一同】

異議なし。

【頼高市長】

それでは、次回の開催については10月に開催することといたします。

【佐藤室長】

最後に、本日の会議録につきましては、事務局で作成した後、皆さまにご確認をさせていただき、要領第6条の規定により公開をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【頼高市長】

以上で本日の議事を終了いたします。ありがとうございました。

それでは、進行を事務局へお返しします。

4 閉会

【伊藤部長】

ありがとうございました。それでは、本日の会議はこれで全て終了いたしましたので、閉会とさせていただきます。